

かゑらじと かねて思へハ 梓弓

なき敷に入る 名をぞとどむる

四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第147号

令和4年7月12日

発行=四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

四條畷に根付いていた村相撲、そして小楠公の影響も

村相撲の大関、化粧まわしに「菊水」

明治元年創業、菊水総本店(湊川神社正門前)廃業！

● 四條畷の大関に、菊水の化粧廻し ●

6月例会で、私たちの会の企画委員の土井利勝さんが「探していた写真が本棚の奥から出てきました。」と持参されたのが、右の写真です。

この写真に納まっている抱かれている子どもが土井利勝さんで、菊水の化粧まわしをつけた相撲取りが「大関」を張っていた祖父の利一郎さんです。

土井さんは、公開講座の感想文、冒頭に次のように記されています。

「わたし」と「正行」がどのようにしたら結びつくのか悩みましたが、無理やり結び付けようと割り切り、感想文をスタートさせました。

私は、四條畷神社の大鳥居の近くで、戦中に生まれました。四條畷小学校3年生までは祖父母に育てられ、祖父には四條畷神社へよく遊びにつれて行ってもらったことを覚えています。正行を祀られていることを知ったのは中学生の頃だったと思います。また、祖

父が戦後の村相撲で「大関」を張り、3歳か4歳ころの私を抱いている写真を、祖父の死後に見せられて驚きました。なんと、祖父の化粧まわしが「菊水」であったことです。



● 果たしてしこ名はどうだったか ●

四條畷ゆかりということ「菊水」の化粧廻しをつけているのだと思われます。ただ、あまりにも古いお話なので、しこ名が分からないということですが、もしかしたら「菊水丸」「多門丸」「楠公丸」などと名乗っていたのでしょうか。

この一枚の写真で、戦後まなしの昭和20年代の頃、正行ゆかりの市民生活が感じられ、嬉しい限りです。

ちなみに、四條畷は相撲と縁が深かったようで、最近あまり使っておられないようですが、市民体育館サンアリーナの東側には土俵も残っています。今から30

年ほど前までは、多くの子ども達が相撲に興じていたことを覚えています。



初代当主吉助は、楠水正成公の功績を後世まで伝えたいと思い、正成公の勇姿を焼き入れた「瓦せんべい」を愛業いたしました。その功績が称えられ、有栖川宮熾仁親王より「菊水」の姓を賜り、明治元年創業以来、和菓子作り一筋につくしてまいりました。

| 小瓦18枚入り | |
|---|-----------------------------------|
| 名称 | 焼菓子 |
| 原料 | 砂糖、小麦粉、卵、マーガリン(植物油を含む)、ラム酒、糖蜜、鹽 |
| 内容量 | 18枚 (2枚×9袋) |
| 賞味期限 | 2022.6.14 |
| 保存方法 | 直射日光、高温多湿を避けてください。 |
| 販売期間 | 菊水総本店 常時販売 |
| 製造者 | 神戸中央区多摩通3丁目3-15 ☎(078)382-0080 |
| <small>本商品は製造工場に直接生産された製品を厳選してあります。 アレルギーの注意、製造方法は包装紙に入っている資料をご覧ください。</small> | |

瓦せんべいの老舗、160年の幕を閉じる

— 歴史と伝統漂う包装紙 —

楠氏ゆかりといえば、また残念なマスコミ報道がありました。

明治元年創業の瓦せんべい「菊水総本店」(神戸湊川神社正門前)が廃業されました。

私たちの会の真木副代表のご家族が、最後の営業日に訪れて購入され、菊水総本店最後の瓦せんべいを届けてくださいました。

写真上は、歴史と伝統を感じさせる包装紙です。菊水の下に創業明治元年と書き、「私たちが守り続けたもの。和菓子の伝統と季節の呼吸、そして、神

戸の文化。」とキャッチコピーが書かれています。

写真下は、化粧箱に入った瓦せんべいを入れるビニール袋のデザインです。江戸末期の情緒を漂わせる西国街道沿いの瓦せんべい老舗を連想します。

楠公顕彰 お疲れさまでした。



楠正行を学び、顕彰する私たちにとっては、楠公ゆかりの菊水総本店が店を閉めるのは非常に残念です。かつて、バスツアーで市民を連れて行き、「瓦せんべい」の実演も見ていただいたお店ですので、なおさらのことです。湊川神社よりも古く、160年近くに涉っての営業、お疲れさまでした。

ありがとうございました。

(文責：四條畷楠正行の会代表 扇谷昭)